

18

令和4年8月

岩手大学教職大学院



NEWS Letter

岩手大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻

「教育実践研究の成果」を更新して公開中
教職大学院ホームページにてご覧いただけます！<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>川村一真・久坂哲也(2022) 児童の理科に対する興味の深化を
促す授業づくり. 他20編掲載. 教育学研究科研究年報 第6巻岩手大学大学院教育学研究科研究年報
オンラインISSN 2432-924X

問合先: 岩手大学教育学部

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edu@iwate-u.ac.jp URL <https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

「授業力開発実習」での学びと手応え

授業力開発プログラム
学卒 M2 安藤 颯

授業力開発実習で小単位を通して授業実践を行うことで、生徒のもつ「誤解やつまずき」に着目することの大切さを改めて学びました。間違えることを避けたいと思うことは当然の考えですが、「間違いから学ぶこと」はとても価値があることです。そのことを生徒に伝えながら、時には教師も間違い、ともに考えることが必要だと感じました。

授業力開発プログラム
現職 M2 大谷 寛子

年度初めに、新任指導主事研修会への参加や県教育委員会でのシャドウイング等、大変貴重な学びの機会をいただき、大学院での学修の背景について学びました。学校の教育活動には、教育行政やそこに携わる方々が欠かせないこと、国や県の施策は、未来の子ども達を見据えたものであり、推進する想いは学校現場の教職員と同じであることを感じました。今後の学修では、行政と教育現場をつなぐ役割を担うべく見識を深めていきたいです。

教育実践研究・中間発表会

中間発表会に向けて

授業力開発プログラム
学卒 M2 太田 絵理

これまでの1年半の院生生活で研究計画を立て、調査の実施、分析、考察を行ってきました。その研究成果をもとに中間発表会に向けて、ご参会の皆さんに自身の研究をいかに分かりやすく伝えることができるのか、ご意見をいただける発表となるのかを模索しながら発表資料の作成を行いました。中間発表は、多角的に自身の研究についてご助言をいただける機会です。いただいたご意見をもとに今後の研究に励んでいきます。

中間発表会を終えて

学校マネジメント力開発プログラム
現職 M2 及川 総司

7月22日(金)にM2中間発表会が行われました。教職大学院では院生が各自の研究テーマに基づいて理論知と実践知の双方からアプローチした教育実践研究に取り組んでいます。今回の発表は、これまでの成果を整理するとともに、まとめまでの方針を確認し修正のための助言を得ることを目的として実施され、たくさんのご指導・ご助言をいただくことができました。

理論と
実践の
融合。

教職大学院の日々

授業力開発プログラム
現職 M1 小野 靖子

「理論と実践の往還(融合)」を掲げている教職大学院で、私は、学校・教育に関わるあらゆる分野を経験と知識に富んだ大学の先生方から学んでいます。また、授業の中では、現職院生と学卒院生が意見を交流したり実習を行ったりしながら理論からの学びを深め、これまでの実践の裏付けと新たな視点での省察を重ね、充実した日々を送っています。

授業力開発プログラム
学卒 M1 関 要

入学してまだ約4か月ですが、講義や実習を通じて多くの学びを得ることができ、充実した日々を送っています。現職院生からお話を聞いたり、実習で実際の学校現場を体感したりすることで改めて自分の目指す教師像を考えるきっかけとなりました。目標に近づくために、学部時代よりも学修意欲が高まっているのを実感しています。

「ニュースレター」の最新号とバックナンバーは、こちらから
<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>「岩手大学大学院教育学研究科研究年報」は、こちらから
<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/shoukai-2/seika>「岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業 教育実践研究論文集」は、
こちらから <https://www.edu.iwate-u.ac.jp/kenkyuu-2/gp/>「教育実践・学校安全学研究開発センター」は、こちらから
<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/huzoku/jsw/>教育学研究科教員
メッセージ実務家教員
加藤 孔子

4月に第7期生13名が入学し、30名の院生(学卒14名・現職16名)による学修がスタートしました。教職大学院は、「理論と実践の融合」を理念とし、高度専門職業人としての教員の養成を目指しています。異年齢、異経験の院生集団の環境で、研究者教員と実務家教員の個々の専門性を活かした授業を進めています。私の担当している「道德教育の実践と課題」の授業では、道德教育の理論を深め、学校における道德教育計画作成の実際や、今求められる道德科の授業づくり等を学卒、現職院生が活発に議論を交わしながら創り上げています。また、連携協力校や附属校で実践実習を重ね学校マネジメントや授業の実際について学びを深めています。7月末には2年次院生による教育実践研究中間発表会が行われました。このように教職大学院での2年間の学びは、専門的・実践的力量を培うとともに、院生同士の主体的対話的な関わり合いから、今教員に求められている人間的力が育まれ、修了後には「学校の大きな力」となることを確信しています。